

# フォーラム： 奈良女子大学における 教養教育の再構築のために

## ——奈良女を、どんな大学にしたいですか？

去る3月14日の全学説明会をもって改組計画が確定し、本学が目指す中期的な将来像が見えてきました。しかし、未だ大きな課題が残っています。——奈良女子“大学”が高等専門学校ではない所以が教養教育にあるとしたら、それをどうするのか。大学設置基準の大綱化以後、崩壊したと言われている教養教育を、本学において私たちはどのように再構築するのか、という課題です。

この課題は、日本の高等教育全体が抱える問題であると同時に、大学に「機能分化」や「ミッションの再定義」が迫られる状況の中で、私たちにとっては奈良女子大学のポジションの浮沈にかかわる死活問題でもあります。

教育システム研究開発センターでは、この問題に関する高等教育研究プロジェクト——**大学の「機能分化」状況における専門教育と教養教育との創造的再構成**——を2年間にわたって実施して（詳しくは裏面をご参照ください）、教養教育の改革素案をまとめ、学長と教育計画室に答申しました。ここからは、あらためて全学的に議論を行い、改革を具体化させて行く段階になります。

そのための議論の場として、3回シリーズのフォーラムを企画しました。多くの教職員の皆さまの参加をお待ちしております。

### 第1回 「教養」の意味を問い直す——日本の高等教育の現状と奈良女子大学

日時：2013年5月17日（金）16時30分～18時30分

場所：A棟 理学部会議室

あいさつ：今岡春樹学長

司会：小路田泰直副学長

話題提供：生活環境学部 植野洋志教授

文学部 西村拓生教授（教育システム研究開発センター長）

以降の予定（日時未定）

第2回 奈良女子大学生の学びの現状から

第3回 やるべきこと／できること——改革案の可能性

主催：教育システム研究開発センター、教育計画室

■ 高等教育研究プロジェクトの趣旨 ■ (ニューズレター第15号、2011年7月 より)

近年、大学進学率のいっそうの上昇（高等教育のユニヴァーサル化）の中で、大学の「機能分化」の必要性が叫ばれています（大学審議会「21世紀の大学像」1998年、中教審「高等教育の将来像」2005年など）。この状況は、奈良女子大学にきわめて難しい選択を突きつけています。敢えてシンプルに言うならば、それは「研究大学」か「教養大学」か、という選択です。もしこれが単純な二者択一であるならば、おそらく本学は進退窮まります。

単純に「研究大学」路線を強行した場合、旧帝国大学との競合の中で埋没することになるでしょう。じっさい既に私たちは大学院定員充足の困難に直面しています。大学院教育のレベルはむしろ低下し、形骸化しかねません。かといって、「教養大学」路線を選んでも、今度は歴史的な本学のプレステージを失い、京阪神の女子大との競合の中で埋没することになるでしょう。この路線も、本学の理念からして、また経営戦略の視点からも、自滅の道です。——右を選んでも左を選んでも行き詰まる、ダブルバインドの罠に直面して、奈良女子大学はどうしたらよいのでしょうか。

唯一の活路は、「機能分化」の罠に陥らずに、高度な専門教育と新たな教養教育を、創造的に再分節化して、敢えて両立させることであると考えます。

ところが、この取り組みにあたって、私たちは拠り所となるモデルを持っていません。1991年の大学設置基準「大綱化」以後、日本の大学における教養教育は崩壊したと言われています。では、どうしたらよいのか。教育学の理論においても、この問題の「正解」は得られていません。——実践的にも理論的にもモデルが無いことは、困難ではありますが、可能性でもあります。私たちが求めているのは、あらかじめ与えられた理念や理論を具体化することでもなければ、どこかの成功例を模倣することでもなく、奈良女子大学ならではの、本学にとって必要な、本学でこそ可能な、実践的な答えです。

それを求めるために私たちは、奈良女子大学の教員に専門教育と教養教育のあり方について意見を伺うと同時に、本学の学生の学習状況を調査し、それらを基に全学的な議論を喚起したいと考えています。本プロジェクトは、まずその触媒となることを目指しています。具体的には、プロジェクトを担当するセンター員が附属学校も含めた学内の様々な教員にインタビューを行い、その内容をニューズレターで報告することを通じて、問題提起および議論の基盤形成を試みます。（中略）

求められているのは一般的な高等教育の理論ではなく、奈良女子大学ならではの実践的な答えです。ですから、このプロジェクトが最終的に目指すのは、あくまで本学において実施可能な具体的なプランを作成することです。